

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	寝屋川市立第四中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	116	117	108	3	344	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上をめざして
すべての生徒が生き生きと学ぶことができる学校づくり

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 1、2、3年・数学
- 1、2、3年・英語

いずれも、基礎からの積み重ねが必要な教科であり、学年が上がるほど理解の程度に差がしやすい教科であるから。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 一人一人の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな授業の創造</p> <p>研究の見通し 習熟度別少人数指導を実施することにより、生徒の理解に応じたきめ細かな指導ができる。</p> <p>研究の内容・方法 学年・教科により最も適していると思われる形態で習熟度別少人数指導を実施し、その結果をアンケート等により分析する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 教科・学年に適した、少人数・習熟度別授業のあり方の更なる研究 教師一人一人の授業技術の向上</p> <p>○研究の見通し 学年、教科、単元に適した少人数指導の形態が明らかになる。 すべての生徒が生き生きと参加できるような授業作りのための、日常的な努力が行われるようになる。</p> <p>研究の内容・方法 本年度の結果をもとに、年間を通しての少人数・習熟度別授業の実施計画を立て、実際におこないながら細かな修正を加えていく。 研究授業の更なる充実を図り、教育技術の向上を図る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

- 学力フロンティア・プロジェクトチームを設置
構成；フロンティアティーチャー、研究部、教務部、数学・英語科代表
- 授業改革への取り組みの強化
全教員がそれぞれの授業改革のテーマを明確にし、個人レポートを作成すると共に、全員が研究授業を行い教育技術の向上に努めた。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 数学、英語における様々な形での少人数指導・習熟度別指導の取り組みを通し、より望ましい分割の形態や時期が明らかになってきた。
数学の場合、単純分割の少人数指導を基本に、単元の最後で習熟度別授業を実施するやり方がスムーズであった。また、単純分割の場合でも単元ごとに教師が交代するなど、生徒に不公平感を抱かせない工夫が必要であることもわかった。
英語では、単純分割、習熟度別、課題別（グラマーとコミュニケーション）の3通りの方法で実施した。単純分割と習熟度別はプラスの評価が多かったが、課題別については進度調整が困難であるなどの問題点が明らかになった。
- 生徒のアンケートによると、約80%の生徒が少人数指導はプラスになったと感じている。主な意見は、「少人数で集中できる」「質問がしやすくなった」等

2. 今後の課題

- より良い授業の形態をめざすのは当然のこととして、授業技術の向上や教材の開発等、授業内容そのものの改善がますます重要になってくる。そのために、学校として授業改革の具体的なテーマをより一層明らかにし、研修に取り組んでいかなければならない。

学力把握のための学校としての取組

- 新入生に対する算数のレディネステストを実施し、小学校の学習内容の習得状況を把握。
- 週1回、各教科において基礎・基本の定着状況を確認するために形成テストを実施。理解が十分でない生徒に対しては、治療的学習としての補習を行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年12月9日に研究発表会を開催。全クラスの公開授業と数学・英語の少人数指導に関する研究討議を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無